



◀大人気だった白神ねぎ1本焼き



白神ねぎまつりを初開催！

ねぎ部会・JAあきた白神

第1回白神ねぎまつりが11月23日、能代市役所さくら庭で開かれました。白神ねぎの販売額が4年連続10億円を突破したことを記念して初めて企画されたもので、市内外から多くの来場者で賑わいました。

開会式ではねぎ部会の大家和浩部会長が「この時期の白神ねぎは甘みが増しておいしくなっている。能代の特産としてこれからも一生懸命生産するので、みなさんも食べてPRしてほしい」とあいさつしました。会場では、新鮮な土ねぎの即売やねぎの皮剥き体験、白神ねぎ1本焼き試食会、白神ねぎラー油や生ふりかけなどの加工品の販売などが展開され、各コーナーの前には行列ができました。白神ねぎ1本焼きを食べた来場者は「皮を剥くと真っ白できれいだったし、食べてみると本当に甘いという表現がぴったりの味だった」と話してくれました。



▲行列ができた土ねぎ即売会

(農)轟ネオファームが大賞を受賞

営農企画課

地域農業をリードし、農業の模範となる優れた活動をしている産地や経営体を表彰する、平成30年度秋田農林水産フォーラムが11月16日、秋田市で開かれ、(農)轟ネオファームが担い手部門で大賞を受賞しました。

同法人は、園芸メカ団地内でのリーダー的役割を果たし、目標販売額1億円の達成に大きく貢献したほか、大規模機械化体系の実践や加工・業務用ねぎの契約出荷、消費者ニーズに応じた新たな規格にも柔軟に対応しています。また、若手農業者の雇用・育成にも力を入れており、農業実習を積極的に受け入れ、就農人口の増加に努めている取り組みが評価されての受賞となりました。



▲川原副知事との記念写真



▲ねぎサミットで白神ねぎをPR

全国22産地から自慢のねぎが大集結

ねぎ部会

新潟県新潟市で、「ねぎ」の魅力をアピールし、消費拡大につなげようと、「全国ねぎサミット2018inにいがた」が11月3日と4日の両日開催されました。

今年で9回目を数える同イベントには、全国16府県から22の産地が参加しました。「白神ねぎ」は2回目のねぎサミットから毎年参加しており、今年は「白神ねぎ」をはじめ、「白神ねぎラー油」や「生ふりかけ」などを販売しました。用意した品々は完売するなど、全国での「白神ねぎ」の知名度もかなり高くなってきていることが伺えるねぎサミットとなりました。来年は、千葉県松戸市で開かれます。